



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.goodream.co.jp/hoyukai/>

発行:2011年1月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

年頭所感

～DPC（診断群分類）を導入して～

特定医療法人社団鵬友会 理事長 児玉 喜直



皆様明けましておめでとうございます。

瞬間に一年が過ぎ、また新しい年を迎えました。昨年を振り返ってみますと、当法人としても色々なことがありました。鵬友会は皆様も御存知の通り3病院、1クリニック、1老健施設より成り立っていますが、更に瀬谷区に本郷クリニックという医療施設が開設され、これで当法人は6つの施設の集合体となりました。また湘南泉病院は昨年4月よりDPC（Diagnosis Procedure Combination）＝診断群分類を導入致しました。これも偏に職員各位の健闘の成果に他なりません。

ここで、御存知の方も多いと存じますが改めてご説明しますと、DPCとは一言で言うなら「包括医療」のことです。即ち医療機関が医療行為を行った際、その病名によって、国から定められた治療費が自動的に支払われることを言います。つまり、高度な知識や技術、設備が必要な病気に対しては高額の治療費が国から支払われ、それ程でもない病気に対してはそれなりの治療費が支払われます。例えば重症の肺炎と単なる風邪との治療費が同じはずはありません。DPCが導入される以前は、行った治療費をそのまま国に請求する出来高払いでした。ところが出来高払いには過剰診療や薬漬け医療といった医療の弊害が生じる問題点もあったので、これを是正するために考え出されたのがDPCというシステムでした。ただしDPCは高額な治療費を請求できる病名さ

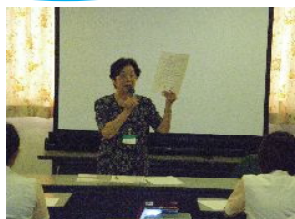
え付けられれば、いい加減な治療をしていても高い治療費を国から頂けるのかとも勘違いしかねないリスクをはらんでいます。しかし実際にはそんなことは絶対にまかり通るはずがなく、DPC認定病院は国の機関によって厳重に病名と治療内容がチェックされています。もしその病院のやり方に些かでも不審な点があればたちまち査察が入り指導が行われ、改善されなければ認定が直ちに取消されてしまいます。ですから我々がDPC病院であり続けるためには、対象となる病気（病名）に充分対応できるだけの力（知識、技術、設備）を備えることが不可欠となります。世の人々がなるべく質の高い医療を受けたいと願うのは当然のことです。今後、人々のそのような願いに応えていくのは、このDPC病院だと思います。それには付随して出てくるであろう諸問題を乗り越えていかねばなりません。我々は導入してまだ一年足らずですが、そこに従事する私たち医療者みんなの弛まぬ努力が、DPCの本来の目的である医療費の無駄を省き、少ない医療資源を有効に使い、それによって身近な一般病院が生き残り、人々が安心して暮らしていける様に貢献できるならば、DPCは関係する全ての人に福音をもたらすシステムといえるのではないのでしょうか。

新年にあたり我々職員みんなでも更なる向上を志してゆきたいものです。

この研修会は、介護福祉士としての役割を理解し、セクション全体のケアの質の向上を図ることを目的とし、新中川病院・横浜ほうゆう病院・阿久和鳳荘の介護福祉士全18名を対象に行いました。研修内容は、約6ヶ月をかけ研修者自身が自分のセクション内の課題を見つけ、各セクションの中で話し合いながら課題を解決し、日々の業務の改善に繋げていくというものです。その間、3回の研修会を行い、課題の取り組みの進捗状況や悩みなどをGW（グループワーク）によって話し合いながら、研修成果につなげていきました。

研修1回目

会場：横浜ほうゆう病院



【講師：法人本部
永澤看護統括部長】



【講師：横浜ほうゆう病院
渡辺看護部長】

研修2回目

会場：阿久和鳳荘



【GWの風景】

介護福祉士に期待することやその役割の重要性について、永澤看護統括部長から強いメッセージが送られ、研修会の幕は上がりました。続いて渡辺看護部長より“NSTの実際”というテーマで講義があり、リーダーシップ力や現場での実践方法についての話を聞いた後、GWに入りました。1回目のGWでは、各セクションの状況や課題について、続く2回目のGWでは、取り組んでいる課題の経過報告について、ファシリテーターのもと、3つのグループに分かれて話し合いました。今まで他の職場の状況を聞く機会があまり無かった為か、皆とても真剣な表情で話しに聞き入り、意見を出し合うなど活発なGWになりました。第3回目は、いよいよ全体発表の日。各人が思い思いの方法で取り組んできた具体的な成果をプレゼンテーションし、全体での意見交換を行いました。

研修3回目

会場：新中川病院



【パワポイントによるプレゼンテーション】



◆今回の研修会を通して…

「施設の枠を超えた議論」は法人として新たな試みでしたが、内容はとても素晴らしく、有意義なものになったと思います。施設は違えどやはり同じ志を持った介護福祉士同志、“職場を良くしたい”“より良いケアを提供したい”という強い思いを皆が抱いていることが感じられました。この経験をこれからの業務に活かし、ケアの質の向上に繋げていきたいと思ひます。

市民向け医療・福祉講座 開催のお知らせ

【テーマ】看護・介護の現状 —新中川病院の取り組み—
～チーム医療を目指して～

【日時】平成23年2月19日（土）13：30～

【場所】新中川病院

【参加費】無 料

お問合せは、鵬友会本部 045-810-0331 担当：福島まで